

I
章

街を
知る

中区ウォーキング

中区はあなたのふるさとですか。

こんなこと突然きかれても、中区で生まれて中区で育った生粋のハマッ子ならいざ知らず、

途中参加のハマッ子にしてみれば何とも答えようがないかもしれません。

ふるさとの記憶は、街角のふとした風景から始まるとか。

そういう小さな記憶のかけらがいくつも集まって、ふるさとになるのでしょうか。

数十年でも数日でも、中区に暮らすすべての人に

中区のかけらをたくさん集めてほしいと思います。

そのために、通勤・通学や買物で歩く

いつもの街並から見つめ直してください。

自分の街の観光旅行。

そうやって改めて街を歩いてみると、見慣れた景色がとても新鮮に見えてきます。

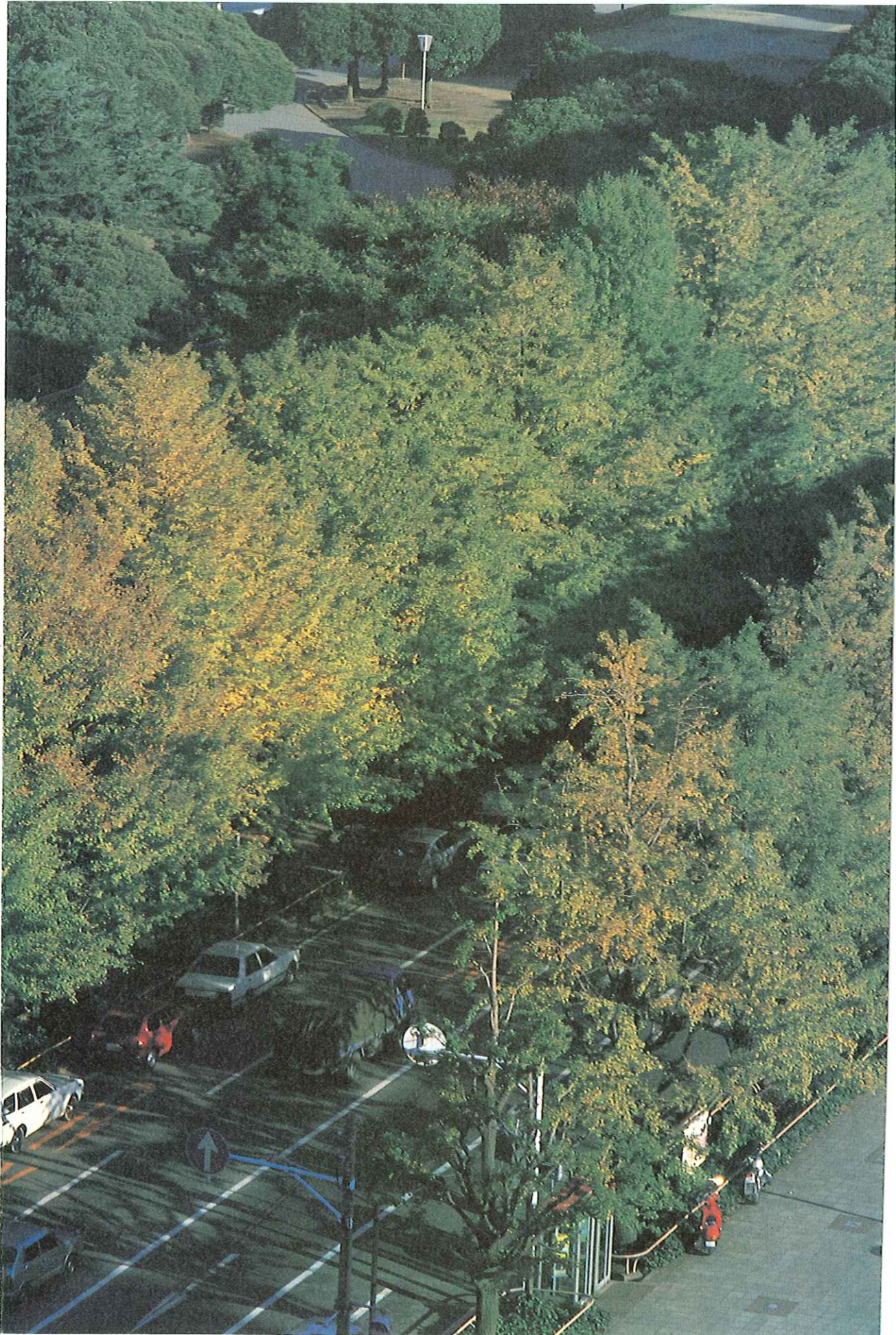
「中区ウォーキング」では、そんなふうにな中区の魅力が再発見できるコースを

自然、歴史、文化の三つの視点から選んで紹介します。

コースといってもぐるりと歩くようなコースもあれば、四季を通してじっくり見てほしい散歩道もあります。

イラストマップを片手に、どうぞ自分の足で確かめてください。

そうして自分だけのオリジナルコースをどんどん開拓してください。



おすすめウォーク

① NATURE 編

中区の自然と親しもう

海や川が埋立で消え、緑も宅地化でずいぶん少なくなりました。

でも、中区はその気で見ると、まだまだたくさん自然の輝きが残っています。もちろん数十年前とは比べようもないけれど、たとえば街の中の緑、たとえば潮風、それに野鳥。あたりまえすぎて、何だそんなことか、と思うかもしれませんが、でも、こういう街の中の自然は、ちょっと見方を変えることで、今まで見えなかったり、聞こえなかったりしたものが、急に生き生きと飛び込んでくるものです。

あそここの花は咲いたかな？ きょうは何の鳥に会えるかな？ 海の色は同じかな？ こんなふうに街を歩いてもらいたいから、「おすすめウォーク NATURE 編」を紹介します。

半日かけてゆっくひと 「緑と洋館の巡り道」

その昔、横浜がまだできてきたのホヤホヤだったころ「外人遊歩道」という散歩道がつくられました。散歩好きの異人さんたちのために、風光明媚な地を選び、馬でぐるりと回れるようにしたのです。

この遊歩道を現代に復活させようというのが、「緑と洋館の巡り道」です。

大正から昭和の初めにかけて建てられた洋館があちこちにある山手の丘から、山手本通りをぬけて根岸森林公園へ。それから池袋公園で、コンピナートの向こうに広がる根岸湾をながめつつ



山頂公園予定地のすぐ手前にある池袋公園。根岸湾が良く見えます。

ひと休み。この先

は本牧山頂公園の予定地が続きます。

ここは残された緑を生かした公園

になる予定です。接収のため開発の

手をまぬがれ、今も森や清水が残っ

ています。公園予定地をぬ

けると本牧十二天産業道路からワシ

ン坂へ向かい、山



港の見える丘公園の近くに建つイギリス館は元英国総領事官邸。

手の丘に戻ります。

一周約九キロメートル。歩きやすい道にするために順次整備しています。緑、洋館、海といった中区のハイライトシーンを満喫しつつ、半日かけてゆっくひ歩いてほしいコースです。

中区ならではの 潮風散歩をどうぞ

都会でありながら潮の香りのする街。潮風に吹かれ、海を感じる、こんな中区ならではの散歩をしてみませんか。

まず山下公園から。最近では公園前の海がきれいになって、小さな魚が泳いでいるのを見ることができるようになりました。



旧貯木場

海づり施設

フランス山

プラタナス

イチョウ・マテバシイ

港の見える丘公園

イギリス館

北方老人憩の家

青少年図書館

外人墓地

山手資料館

山手聖公会

イチョウ・ユリノキ・エンジュ

本牧神社

吾妻神社

公園

横浜雙葉学園

セント・ジョセフカレッジ

山手公園

山頂公園予定地

サクラ

神社

サクラ

カトリック山手教会

老人福祉センター

皇太神宮

女子学院

山手本通り

老人福祉センター

池袋公園

三溪園

八聖殿

柏葉老人憩の家

柏葉公園

ユリノキ

山手

本牧市民公園

イチョウ・マテバシイ

地藏王廟

旧根岸競馬場観覧席

根岸森林公園

根岸八幡神社

ここで紹介するものはすべてウォーキングマップに掲載しています。



潮風を求めて、県外からもたくさんの方が訪れる山下公園

ができる場所でもあります。

最後は本牧ふ頭の端にある海づり施設。さえるもの何もない雄大な海が待っています。ここは、晴れた日には三浦半島、房総半島まで見渡せて、見学だけでも十分満足できそうです。



海づり施設は、東京湾の代表的な釣り場でもあります。

野鳥と街路樹で知る 中区の春・夏・秋・冬

野鳥や街路樹は街の季節を伝えてくれます。庭先でウグイスが鳴き出したら春の到来。数週間後には伊勢佐木モールのコブシが咲きます。三月も終わるころ、あちこちでシジュウカラのさえずりが聞こえてきます。ツバメの子育てが

初夏を告げ、ユリノキの花、ヤマモモの実が夏の合図を送ります。山下ふ頭にコアジサシがやって来ると残暑見舞いの季節です。秋をつれてくるのはエゾビタキ。三溪園にはカケスがやって来ます。黄色いイチョウが散り始め、三溪園にコガモがやって来ると、冬はもうすぐそこ。街は大きなカレンダー。視線を少し上げて季節のサインをしっかりキャッチしてください。

●中区の野鳥と街路樹カレンダー

2月	ウグイス (街の中)	コブシ (落葉)	サクラ (落葉)
3月	シジュウカラ (街の中)	ユリノキ (落葉)	ヒメリンゴ (落葉)
4月	ツバメ (街の中)	コアジサシ (横浜港)	エンジュ (落葉)
5月	コケス (三溪園)	エゾビタキ (緑の多い所)	マメノシイ (常緑)
6月	ジョウビタキ (緑の多い所)	ツグミ (緑の多い所)	イチョウ (落葉)
7月	コガモ (三溪園)	セグロカモメ (横浜港)	エンジュ (落葉)
8月			ヒメリンゴ (落葉)
9月			
10月			
11月			
12月			

おすすめウォーク

2 HISTORY 編

中区の歴史を訪ねよう

開港と同時に生まれたこの街は、近代日本の幕明けの舞台として、日本人が初めて出会う西洋の文化を次々に吸収していきました。

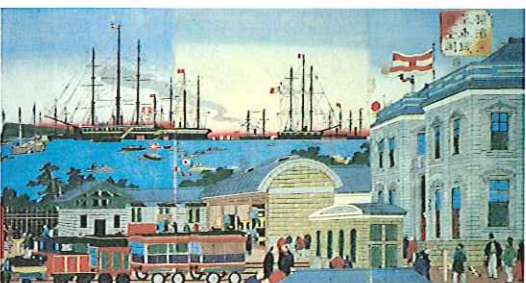
中区の街には、そんな先人たちの驚嘆と好奇心と、そして誇りが今もあちらこちらに残され、現代に引き継がれています。たとえば史跡、たとえば建物、たとえば行事、といったように。

「おすすめウォーク エピソード編」では、この街と先人たちが体験した激動の時代を追体験するコースを紹介しています。しばし街を歩いて、何気ない街角から聞こえてくるあの時代の街と人の息づかいに耳を傾けてみてください。

当時の庶民の気分になって 「発祥の地」碑めぐり

文明開化の窓口となった中区には、日本最初の〇〇というモノ・コトが実にたくさんあります。アイスクリームやビール、クリーニングといった身近なものから鉄道、電信、ガス灯など都市に不可欠な施設までがこの街を通して全国に広がっていったのです。

初めてふれた西洋の技術・文化は当時の人々を驚嘆させました。たとえば、明治五年に日本で初めてガス灯がともったときには、あまりの明るさに火事になるのではと心配する人、明治二年に開設された電信は、キリシタン・パテルンの魔法だといって電線を切る人や、手紙が電



日本の鉄道発祥の地は桜木町駅。明治五年のことでした。

線を通ると信じて一日中弁当持ちで見張る人が相次いだなど、笑い話のようなエピソードがいくつも残っています。

「発祥の地」碑を訪ね歩いてみると、さまざまな混乱を経ながら文明開化を生活に取り込んでいった庶民の生の姿が浮かんでくるようです。

時代の生き証人と語る 中区洋館めぐり

明治から昭和の初めにかけて建てられた洋館は、この街の生き証人。一つ一つがさまざまなドラマをもっています。

まず明治以来の中心街・関内から。日本大通り沿いのキングこと神奈川県庁(昭和三年)、ジャックこと開港記念会館(大正六年)、海岸通りのクイーン・横浜税関(昭和九年)は今も昔もこの街のシンボル。長い船旅を終えて港に帰ってくるتماず目についたのがこの三つでした。

県立博物館は元横浜正金銀行(明治三七年)。外国に牛耳られていた貿易を日本の手に取り戻すために設立されたとか。



山手資料館は関東大震災を耐えた数少ない明治時代の木造洋館。

中区 ウォーキング マップ

「中区ウォーキング」で紹介したあれこれの一つの地図にしました。
どうぞウォーキング・マップ片手に、自分の街の観光に出かけてみて下さい。

NATURE WALK

緑と洋館の巡り道

HISTORY WALK

- ① ガス事業発祥の地
- ② 鉄道発祥の地
- ③ 日刊新聞発祥の地
- ④ かねの橋
- ⑤ アイスクリーム発祥の地
- ⑥ 近代街路樹発祥の地
- ⑦ 電信発祥の地
- ⑧ 外国郵便発祥の地
- ⑨ 日米和親条約締結の地
- ⑩ 電話発祥の地
- ⑪ 近代的製鉄所発祥の地
- ⑫ クリーニング発祥の地
- ⑬ 西洋かわら発祥の地
- ⑭ バプテスト教会発祥の地
- ⑮ ビール発祥の地
- ⑯ テニス発祥の地
- ⑰ 新約聖書和訳の地
- ⑱ 「君が代」発祥の地

CULTURE WALK

- ① シルク博物館
- ② 横浜海洋科学博物館(マリントワー内)
- ③ 人形の家
- ④ 大佛次郎記念館
- ⑤ 神奈川近代文学館
- ⑥ 岩崎博物館(ゲーテ座跡)
- ⑦ 馬の博物館



ここで紹介するものは
すべてウォーキングマ
ップに掲載しています。



地蔵王廟は明治二五年に本国の大工の手で建てられました。

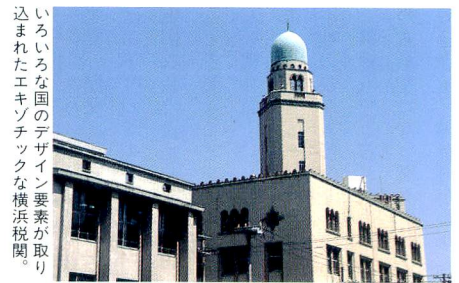
海岸通りにはクイーンのほかに農林水産省合同庁舎（旧横浜生糸検査所・大正一五年）など全盛期の横浜の面影が色濃く残っています。

横浜開港資料館は旧イギリス領事館（昭和六年）。ここは日米和親条約締結の地でもあります。

山手には山手資料館（明治四二年ころ）のような木造洋館が今も残り、また、フェリス女学院（昭和四年）をはじめとするミッションスクールの草分けとなった学校が立ち並んでいます。

根岸の地蔵王廟（明治二五年）は震災を耐えた数少ないれんが建築。この地で亡くなった中国人が眠っています。

こうして洋館を訪ね歩いてみると、その時代



その時代の出来事が、まるでこのうのこのように生き生きとよみがえってくるようです。どうぞ中まで立ち入って、この街と先人たちの歩んできた百数十年の時の流れを、しばし追体験してみてください。

街の歴史を象徴する 中区の祭り・参加ツアー

祭りや行事はその街の歩んできた道を映し出す鏡だとか。中区の場合も、国際仮装行列や開港記念パザーのように開港にちなむもの、おんまながしのように漁村だったころを偲ばせるもの、また、外国人との長いつきあいを示す墓前祭や中華街でのパレード、接収に端を発するTHE BON ODO RIなど、この街の歴史を象徴する祭りや行事が行われています。

見ているだけでも楽しいけれど、たまには自分も参加して新しい街の歴史をつくってみてはいかがでしょうか。



無病息災を願って海にお馬を流すおんまながしは、鎌倉時代から

● 中区のまつりカレンダー

- 2月** ● ポンチはな祭り／8日／外人墓地／ポンチ絵で知られるワグマンの墓前祭、花を一輪献花すれば誰でも参加できる。
- 5月** ● 子育て地蔵尊縁日／5月～9月の毎月1と6のつく日／伊勢佐木町七丁目
 - 横浜みなと祭り国際仮装行列／3日／山下公園
 - 馬車道／伊勢佐木町／時田公園
 - ヘフト祭／5月中の㊦㊧／外人墓地・岩崎博物館／日本最初の洋式劇場を建てたヘフトの業績を偲ぶ墓前祭と講演会
- 6月** ● 元町・蔵島神社例祭／2日／元町
 - 開港記念パザー／上旬／横浜公園・大通り公園
 - 横浜どんたく／上旬の㊦㊧／山下公園付近一帯
- 7月** ● たなばた まつり／7日頃の㊦／大通り公園
 - 吾妻神社例祭／17日／本牧
 - 横浜みなと祭り／花火大会／20日／山下公園
- 8月** ● THE BON ODO RI／初旬／横浜スタジアム／本牧の接収地の中で日本人と外国人が年に一度共に踊った「日米盆踊り大会」にちなむ。
 - 羽衣町・蔵島神社例祭／2・3日／羽衣町
 - 三溪園早朝特別歓迎会／上旬／三溪園
 - 本牧神社例祭（おんまながし）／上旬／本牧神社
 - 本牧漁港／四百数十年以上続く伝統的な祭り
 - サマー・ナイト・フェスティバル／上旬／山下公園ほか
- 諏訪神社例祭／第1㊦㊧／石川町
- 皇太神宮例祭／14日前後の㊦㊧／西之谷町
- 根岸八幡神社例祭／15日頃の㊦㊧／磯子区西町子の神社例祭／20日前後の㊦㊧の日出町
- YOKOHAMA本牧ジャズ祭／最終㊦／本牧市民公園
- 10月** ● 国慶節祝賀パレード／1日／中華街
 - 双十節祝賀パレード／10日／中華街
 - 中区民祭り・ハローよこはま／上旬の休日／根岸森林公園・区内
- 12月** ● みなと横浜／秋祭り／上旬／山下公園付近一帯
 - ウインター・イルミネーション／下旬／山下公園
 - 横浜港・除夜の汽笛／31日／横浜港

中区で文化を楽しむもっつ

よく「横浜の顔」といわれる中区ですが、こと文化施設に関しては、県民ホール、県立博物館、神奈川近代文学館など神奈川県の施設も加わって、まさに神奈川文化の中心ともいえる充実ぶりです。せっかく中区に住んでいるのですから、これを利用しない手はありません。

「中区ウォーキング」最後のおすすめコースでは、中区で気軽に文化を楽しむ、そんな散歩を紹介します。

いつもは素通りしてしまう博物館をのぞいてみるとか、立派すぎて敬遠していた施設でサークル活動をするなど、身近なことから始めてみてください。

歴史、文化、自然を一度に楽しむ博物館散歩

まず関内の県立博物館。建物自体が国の重要文化財に指定されています。ここは神奈川県府の自然、歴史、民俗に関する総合博物館です。次は山下町のシルク博物館。古代から現代までの風俗衣装の復元や江戸前期からの着物、能装束などを見ることができます。続いて、もっつとも新しい博物館・人形の家をのぞいてみてください。九〇カ国以上の国々から集められた人形や江戸中期のひな人形などがずらりと迎えてくれます。谷戸坂を上ると山手の港の見える丘公園。このあたりには、横浜をこよなく愛した大佛次郎の記念館、神奈川ゆかりの近代文学資料を集め



「鞍馬天狗」「バリ燃ゆ」などで知られる大佛次郎の記念館。



た近代文学館、ゲート座跡に建てられた岩崎博物館や市内でも唯一の明治時代の木造洋館を利用した山手資料館と、古き良きヨコハマを今に伝える博物館が集まっています。

世界中の人形が展示されている人形の家には、人形劇場もあります。

山手本通りをぬけて、旧根岸競馬場へ向かうと、近代競馬発祥の地に建てられた馬の博物館があります。ここは馬のことなら何でもわかるとか。ちょっと足をのぼすと、本牧八聖殿郷土資料館です。

歴史、文化、それに自然まで楽しめるぜいたくな散歩です。

港のことなら何でも港に関する三つの博物館

港はいつの時代にも横浜・中区にとって重要な位置を占めてきました。港をいろいろな角度から見ることもできる三つの博物館を回ってみると、そのことが良くわかります。

海岸通りの横浜税関資料室。「港ウォッチング」でも紹介されていますが、鯉のぼりや鏡餅まで輸入品コーナーに展示されているのに驚かされます。

日本大通りの横浜開港資料館は、開港、そし

ここで紹介したものはすべてウォーキングマップに掲載しています。

ペリー来航以来の横浜の歴史を紹介している横浜開港資料館。



て文明開化の激動を証言する資料がそろっています。幕末から明治・大正期までの横浜に関わる人物や事件などに焦点を当てた特別企画は、三月月毎に展示がえされます。

山下公園前のマリントワーには横浜海洋科学博物館があります。水産、海運、船舶、港湾などについて、実物や模型を使って解説している、日ごろ見ることでできない港の中のようなすがよくわかる、子供にも人気の高い博物館です。ぜひ、三つまとめて歩いてみてください。

ウォーキングのついでに 県や市の施設の下見を

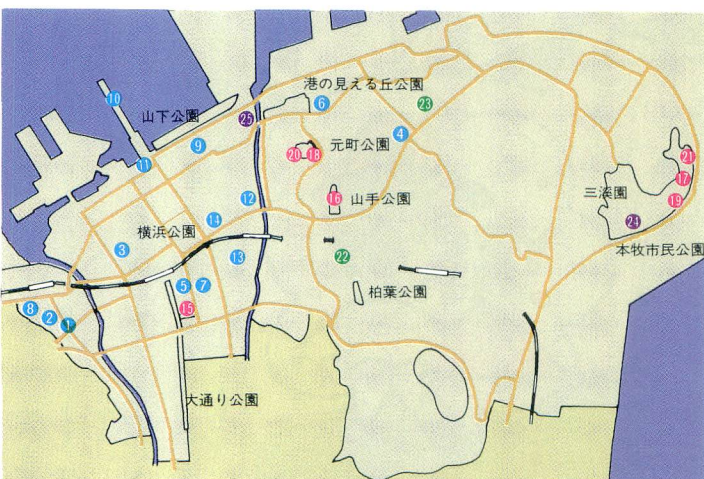
中区には地域活動やサークル活動に使える施設が少ないといわれますが、県や市の施設もいれると、ずいぶんたくさんあるものです。

ここでは、気軽に使える使用料の手ごろな施設を拾い出してみました。ウォーキングのついでに、ちょっと下見してみたいかがでしょう。

会議室・ホール

- 1 横浜市婦人コーナー／三二一六四三二／宮川町(日本中央競馬会横浜サービスステーション内)／無料
- 2 野毛地区センター／二四一四五五／野毛町／無料
- 3 横浜市青少年育成センター／六六四一六二二／住吉町(関内ホール内)／無料
- 4 上台集会所／六三三四二二／本郷町(上台公設市場内)／無料
- 5 横浜市技能文化会館／六八二六五五／万代町／有料
- 6 横浜市イギリス館／六三三七八二／山手町／有料
- 7 平沼記念レストハウス／六七一一三四二／不老町(横浜文化体育館内)／有料
- 8 横浜市健康福祉総合センター／二〇一八六二八／桜木町／有料
- 9 神奈川県国際交流センター／六七一一七〇七〇／山下町(産業貿易センター内)／有料
- 10 大さん橋国際船客ターミナル／二一一三三〇四／海岸通／有料
- 11 横浜市港湾労働会館／〇三三八四／海岸通／有料
- 12 横浜市職能開発総合センター／六五一一二九五／山下町／有料
- 13 神奈川県労働会館／六八一〇三二／寿町／有料
- 14 神奈川県労働福祉センター／六八一八二一五／山下町／有料
- 15 日の出川公園庭球場／六四三三三三／万代町／有料
- 16 山手公園庭球場／六四一一九七二／山手町／有料
- 17 本牧市民公園庭球場／六三三八七四七／本牧三之谷／有料

- 18 元町公園弓道場／六四二一一二七／元町／有料
- 19 本牧市民公園運動広場／六三三八七四七／本牧三之谷／有料
- 20 元町公園プール／六六一〇六九一(横浜市緑の協会)／元町／有料
- 21 本牧市民プール／六二一五〇〇〇(横浜市福祉文化事業団)／本牧元町／有料
- 22 柏葉老人憩いの家／六五一一〇三四／柏葉町内会館内／無料
- 23 北方老人憩いの家／六二一九三四四／北方町／無料
- 24 青少年陶芸センター／六三三八九〇四／本牧三之谷(本牧市民公園内)／無料
- 25 横浜人形の家(人形劇場)／六七一九三六一／山下町／有料

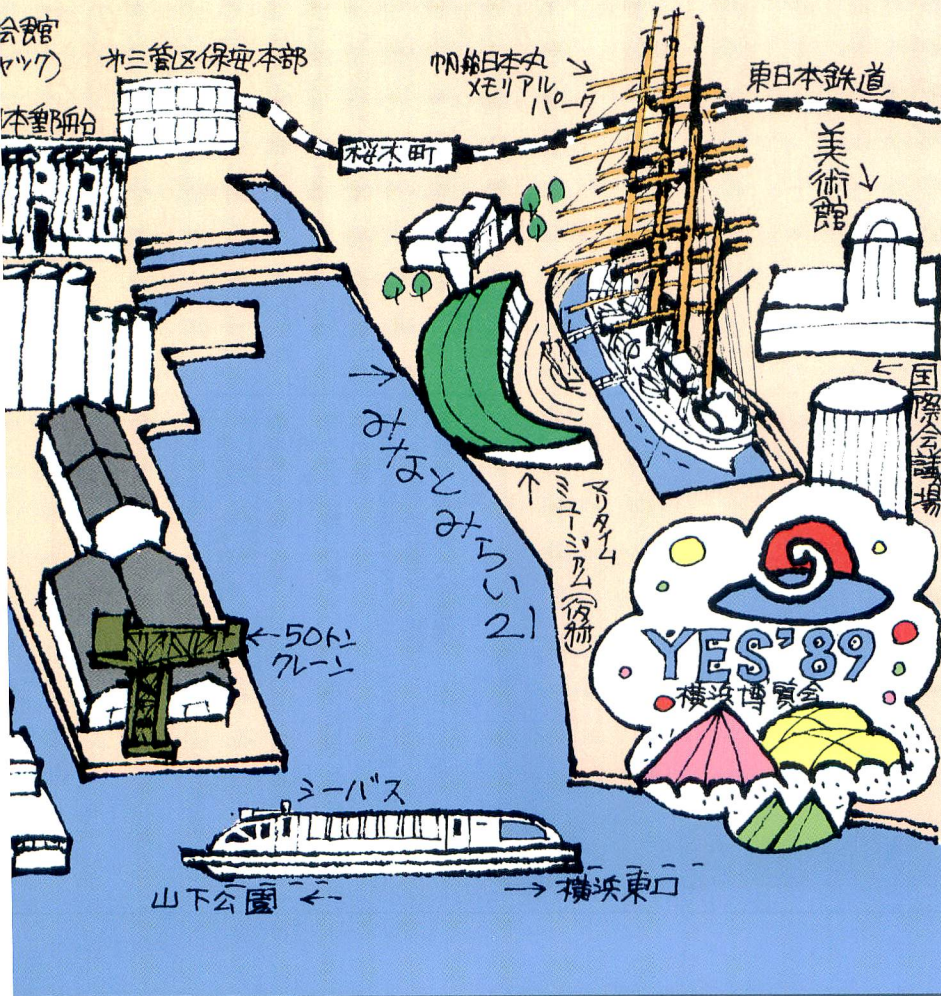
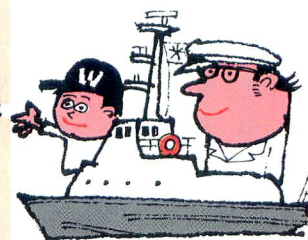


柳原良平さんと 港ウオッチング

まず桜木町からスタートします。東日本鉄道のプラットホームに立つと白い帆船が見えますね、「二存知「日本丸」です。昭和五年に建造された航海訓練所の練習船で、引退後昭和六〇年に横浜市に払い下げられ、ここ桜木町の元三菱重工業横浜造船所の一号ドックの中に係留保存されているのです。実は「日本丸」の浮かんでいるドックは西区になるのですが、入口付近は中区内田町ですから中区にいくらか縁のある場所と考えていいでしょう。今、日本丸の横で板囲いがされ工事中の建物がありますが、これが昭和六四年市政一〇〇周年の年に完成する予定のマリタイムミュージアム(仮称)です。横浜港を中心に世界の海運港湾をわかりやすく知ってもらおうと展示する海洋博物館です。横浜港は世界の三大港のひとつともいわれていますから、横浜港を知ること世界海運や港湾の歴史や発達が見えるわけで、単なる一地方都市の港という狭い見方では収まらない国際レベルの内容をもっています。しかもそれが中区にあるのですから、こと港に関しては区民の大きな自慢といえるでしょう。

桜木町から弁天橋を渡って左の海側へ行きますと、海上保安庁の第三管区保安本部があります。茨城県から静岡県までの太平洋沿岸の水域が第三管区区持ち場で、伊豆七島はもちろん、遠く小笠原諸島まではいります。

馬車道通りの交差点を左に曲がって海岸通りに出ますとどっしりとした風格のある建物が見つかります。これが日本郵船横浜支店、日本郵船といえば日本の船会社を代表する歴史ある会社です。山下公園に係留されている「氷川丸」も元日本郵船のシアトル航路の客



横浜は今から一三〇年前に国際港として開かれました。それ以来今日まで日本を代表する港町として栄えてきたのです。その日本の海の玄関ともいえる横浜港の中心部が中区に集まっています。横浜を知るにはまず港が欠かせません、中区を知るのにも港をぬいては考えられません、さア、港にどんな施設があるのか、どんな人たちが働いているのか、ひとつ港をじっくりとすみずみまで探訪してみませんか、中区の大切な部分を改めて知ることができそうです。

船で、このほか一万吨を超す客船がたくさん世界に走っていたのですが、これらの客船の大半は日本郵船の所有船でした。太平洋戦争で「氷川丸」以外みんな沈んでしまったのです。

その先にクイーン塔の立つ横浜税関があります。税関は国で定められた品目によっては関税をかけ、あるいは持ち込んではいけな麻薬や拳銃などの監視や取締りをします。この建物の中に資料室があって、税関の歴史や輸出入品の分布の展示がされ、おもしろいのは密輸品の持ち込みでいかにバレないようにしようとした工夫の数々が陳列されていたり、純日本風の品物が意外にも輸出入品だったりするのを知ることができます。入場無料、少し入りにくいですが私のイラストの看板が出ていますからどうぞ。

税関のわきから新港ふ頭にはいります。明治三十三年に着工され大正五年に完成したふ頭で、ここに有名な赤煉瓦倉庫があります。

この倉庫は、関東大震災にも倒れず太平洋戦争中の大空襲にも焼けずに残った、横浜には数少ない明治の建物で、保存することが決まられています。海に向かって左側の突堤八号バースの先に大きなこついいクレーンがあります。これも明治に造られたもので五〇トンの重物を吊り下げられる立派なクレーン、保存しておきたいですね。ここはほとんど倉庫ですが、ふ頭のつけ根に関東運輸局の第一港灣合同庁舎があります。ふ頭の中は保税区域といって税関の管理下にあるのでむやみには入れませんが、絶対に立入り禁止というわけでもありません、見物は自由にできます。ただし、三脚を必要とするカメラの撮影はなぜか関東運輸局の許可がいるということです。

新港ふ頭の隣りは大棧橋です。クイーンエリザベス2世号などの豪華客船がやって来るとここに接岸します。客船棧橋なのです。明治二二年から二九年の間に建設された横浜港でもっとも古い棧橋です、一三〇年前前に開港したとき、ここに石積み波止場ができたのですから港発祥の場所です。大棧橋の入口の海に向かって右手に合同庁舎があって海上保安庁の横浜保安部、横浜検疫所、入国管理横浜派出所がはいっています。その隣りが水先案内人、いわゆるパイロットの人たちがいるビルです。みんな港で働く人たちです。



棧橋に向かうと右手に沖に停泊中の船と陸とを結ぶ通船ののりばがあり、左手は税関のバトロールボートの棧橋です。大棧橋には事務所、売店、ホールなどがあるのはよく知っていることでしょう。

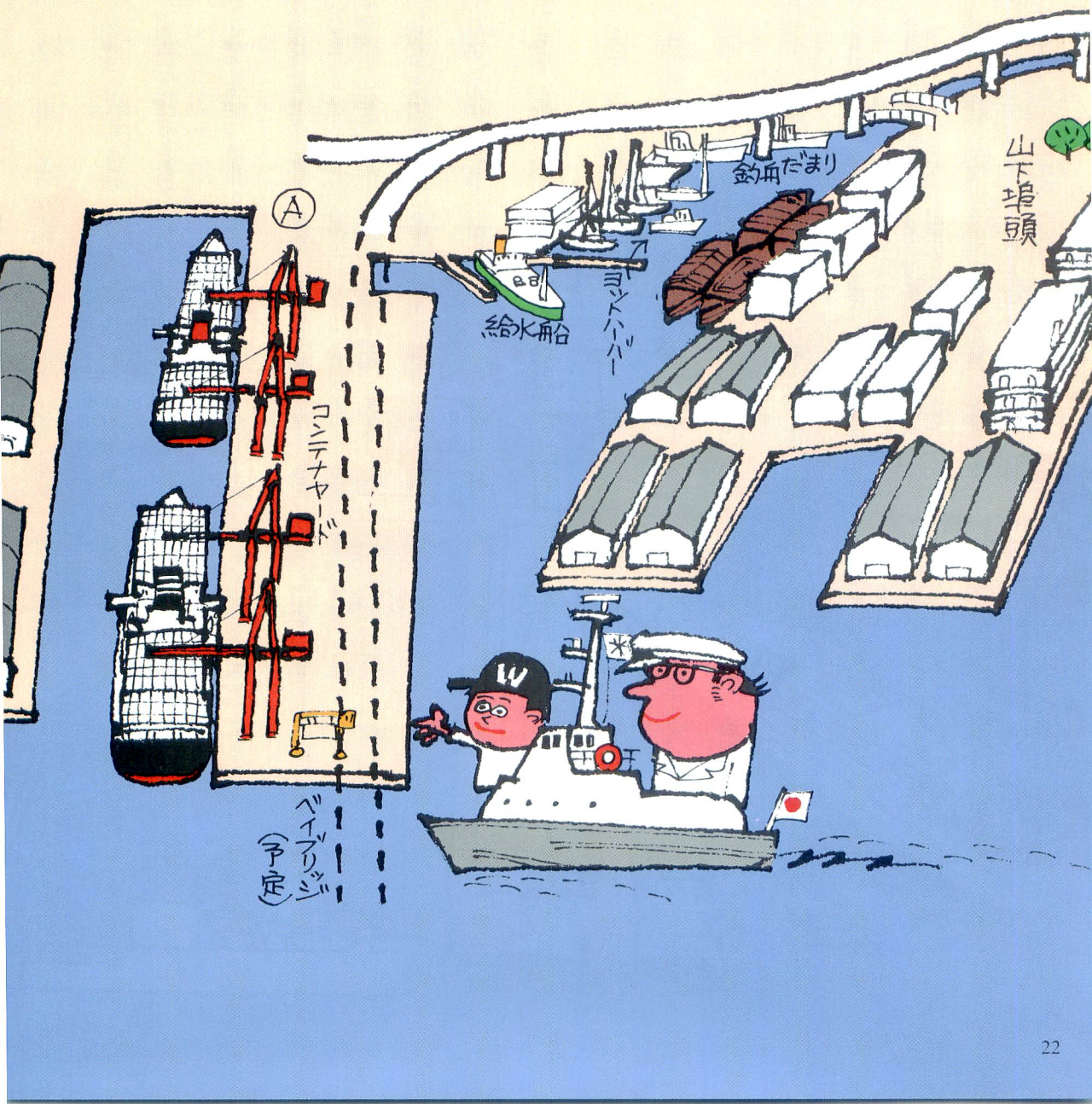
大棧橋と新港ふ頭は明治から大正にかけて造られた古い港ですが、氷川丸の向こうに見える山下ふ頭とその隣りの本牧ふ頭は比較的新しい港で、横浜港がいちばん活躍している現役の場所といえます。山下ふ頭は昭和三八年に完成していますし、本牧ふ頭はその年に着工してようやく増設も終わってでき上ったところです。

山下ふ頭は先が三つの突堤になっています。もう倉庫ばかりです。山下ふ頭のつけ根を横切って新山下橋を渡ると左手に小さな家が並んでいる通りがあります。ここは釣舟屋さんの町です。海に出て舟で釣りをする人が朝早くここに集まります。春のフッコ釣りを私もやったことがあります。早朝四時にここから舟で出て八時にはもう戻ってくるのです。三尾も釣れました。横浜のフィッシュマンワーフです。

少し先に行きますとヨットやモーターボートがながれているマリナーが見つかります。ヨットの造船所もあります。ヨットハーバーのレストランもあります。このレストランは誰でも行けますよ。

ヨットハーバーの突き当たりを右に曲がると、横浜市水道局の給水船の棧橋に出会います。外国航路の船たちが長い航海の途中横浜に寄りますと水を補給するのです。横浜の水は世界でもおいしい方だそうですから、よその港ではなく横浜まで補給しないで来るのだそうです。給水船が水を積んで補給を待つ船まで出かけます。

本牧ふ頭にやって来ました。海に向かって左からA B C Dの順に名がついています。タクシーに乗っていると、無縁で、本牧アメリカのAとかデンマークのDなどと聞き間違えないようによんでいます。Cはカナダ、Bはブリテンです。A突堤はコンテナ専用ふ頭で周囲を塙で囲っているので受付けで許可を得ないと見学できません。事務所があつてどこにどのコンテナが置いてあるか、どの船にどのコンテナを積むかなど命令を出したり、記録します。岸壁いっぱい

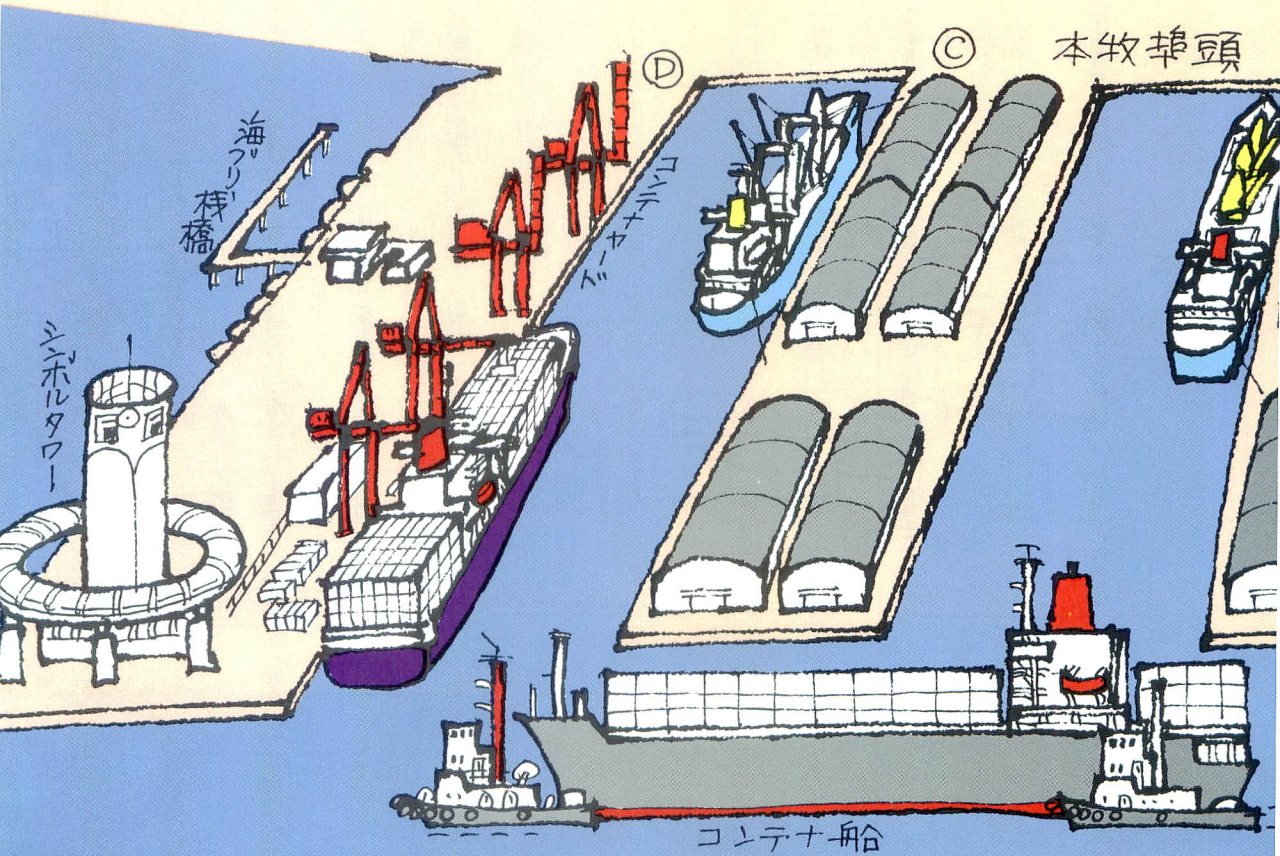


にコンテナが置かれていて、その間をストラウドキャリアーとよぶコンテナをかかえるような車が走って船の横まで運んでいくのです。船の横の岸壁に赤い大きなクレーンがあり、前後に動きながら、コンテナを吊り上げ貨物船に積み込んでいきます。コンテナ船一隻で二、〇〇〇コも積みまます。

BとCは一般貨物船の荷役をする岸壁で倉庫があります。つけ根の方にはふ頭で働く人のための海員生活協同組合のマーケットもあって日用品や食料品が買えます。小型船舶操縦士の免許を得るための勉強や訓練をする建物もあります。ふ頭のつけ根の大通りに面した倉庫の壁面に最近レリーフがつくられました。開港当時の風俗をデザインしたもので殺風景なふ頭にやすらぎを与えてくれています。

Dはできたころは一般貨物用でしたが、コンテナ船が増えてA突堤だけでは不足してきたので、最近コンテナふ頭が増設されました。赤いクレーンが林立しています。これで横浜港もコンテナ化で東京港に立ち遅れたのをいくらか挽回しようです。

本牧ふ頭の東の突き当たりには海つり棧橋があります。市民が手軽に近場で釣りが楽しめるようにと考えられて造られた施設ですね。季節で多少異なりますが朝六時から夜九時まで釣ることができます。海つり棧橋の北側に新しくシンボルタワーができました。もう行った人もいるでしょうね。正式には海上保安庁の船舶通航信号所といます。一階にレーダー室があって横浜港に入りにする船にいろいろ指示を与えるのです。ドーナツ型の展望回廊がすてきですよ。沖合で待っている船、港から出て来る船が、手にとるようによく見えます。港の探訪もここでひと休みしましょう。



二十数年前までは本牧の三溪園の裏は海岸で、波がひたひたと打ち寄せていました。横浜市が大きく広がるにつれてこの辺の海一帯が埋立てられたのです。本牧ふ頭からずっと根岸にかけて広い土地ができました。

ここは港とはいえないかもしれませんが、一つの工場の中に船の着く専用の岸壁があってその工場のための貨物船が出入りしますから、やっぱり港のひとつです。

本牧ふ頭のうしろに日産自動車の専用ふ頭があります。箱のよう
に四角い自動車専用船が輸送用の自動車を積んでいます。積荷である
自動車が自分で運転されて船に乗っていくのです。一隻で二、三
〇〇台以上も乗せます。

この近くには港で働く人たちの住むマンションが建っています。
その隣りには三菱重工業の造船所があります。桜木町にあったのが
「みなとみらい21」という新しい街づくりの場所になったのでこ
こへ引っ越してきたのです。今はあまりたくさん船を造ることがな
いので修理を専門にしています。

南へ下りると日本石油のコンビナートになります。白い円筒のタンク
がたくさん並んでいますね。ここにやって来る船はもちろんオイル
タンカーです。工場内の岸壁ですから一般の人は入ることはでき
ません。私だつてぶらりと訪れるわけにはいかなので東日本鉄
道の根岸線に乗って車窓から工場の中をながめるのです。そうする
と二〇万トンものタンカーが接岸しているのが見られることがあ
ります。

さすがに日本の港を代表するヨコハマです。港ウォッチングは今日
の海運・港湾のありさまをほとんど知ることができましたね。明
治の建物、昭和初期の帆船や客船、現代のコンテナ船、タンカー、
自動車専用船、こんないろいろな船が見られるのは横浜なればこそ
中区なればこそです。それにいろいろな人たちが働いていますね。

(絵と文 柳原良平さん)

